

News Letter

ニュースレター



名古屋銀行

2024年3月25日



「めいぎんポジティブインパクトファイナンス」の契約締結について ～株式会社ティエムエフのサステナブル経営をサポート～

名古屋銀行（頭取 藤原 一朗）は、株式会社ティエムエフ（代表取締役 高橋 正泰）と「めいぎんポジティブインパクトファイナンス」の契約を締結いたしましたのでお知らせします。

当行は、今後もグループ一体となり、銀行の既存のビジネスモデルに捉われない持続可能な収益機会の創出及び付加価値の高いサービスを提供し、さまざまなお客さまの経営課題解決を通じて地域社会とともに未来を創造してまいります。

記

1. 融資金額 200百万円
2. モニタリング期間 7年
3. 資金使途 事業資金
4. PIF 評価書 添付資料をご参照ください。

※株式会社格付投資情報センター（R&I）のセカンドオピニオンは、下記 URL をご参照ください。
<https://www.r-i.co.jp/rating/esg/index.html>

5. 株式会社ティエムエフの概要

代表者	高橋 正泰
本社所在地	愛知県一宮市三ツ井五丁目 18 番 5 号
業種	テープ加工・プラスチック製品製造業
設立年月	1994年11月

<記念盾贈呈式の様子>



株式会社ティエムエフ
取締役社長 平松 聡 氏

株式会社名古屋銀行
常務取締役 南出 政雄

参考：「めいぎんポジティブインパクトファイナンス」の取り扱い開始について

https://www.meigin.com/release/files/20220111meigin_PIF.pdf

以上

ポジティブインパクトファイナンス評価書

～株式会社ティエムエフ～



2024年3月25日
株式会社名古屋銀行
法人営業部 法人コンサルティンググループ

はじめに

株式会社名古屋銀行は、株式会社ティエムエフに対し、めいぎんポジティブインパクトファイナンス（以下、めいぎん PIF）を実行した。

本件取組にあたって、株式会社名古屋銀行は国連環境計画金融イニシアティブ（以下、UNEP FI という。）が策定した「ポジティブインパクト金融原則」及び、環境省が策定した「インパクトファイナンスの基本的考え方」に則り、株式会社ティエムエフの企業活動における包括的なインパクトを分析し、充実したサステナビリティ経営に向けた KPI を設定した。

借入人概要

借入企業	株式会社ティエムエフ
所在地	愛知県一宮市三ツ井五丁目 18 番 5 号
従業員	91 人（2024 年 1 月末）
売上高	1,669 百万円（2023 年 9 月）
事業内容	テープ加工・プラスチック製品製造業

融資条件概要

融資形態	証書貸付
融資金額	200,000,000 円
資金使途	運転資金
融資・モニタリング期間	7 年

目次

1. 企業情報
①会社概要	
②沿革	
③企業理念	
2. 事業内容
①事業概要	
②取扱製品・加工技術	
3. その他の活動・CSR活動
①受賞・認証	
②地域社会への貢献	
③SDGs 達成に向けた取組	
4. インパクトの特定
①インパクトマッピングによるインパクト分布	
②インパクト分布図	
③国内のインパクトニーズ	
5. 測定する KPI
①ポジティブインパクトの拡大	
②ネガティブインパクトの縮小	
6. インパクト管理体制
7. モニタリング方法
8. 総括

1. 企業情報

①会社概要

会社名	株式会社ティエムエフ
創業年月	1991年6月
設立年月	1994年11月
資本金	10,000,000円
代表者	代表取締役会長 高橋 正泰 取締役社長 平松 聡
決算日	9月30日
従業員数	91名
本社所在地	愛知県一宮市三ツ井五丁目18番5号
第一工場	愛知県一宮市三ツ井五丁目18番5号
第二工場	愛知県一宮市三ツ井四丁目9番11号
第三工場	愛知県一宮市あずら1丁目1番27号
事業内容	テープ加工・プラスチック製品製造業

②沿革

年月	概要
1991年6月	一宮市三ツ井1丁目14番5号 高橋製作所にて創業
1994年11月	法人組織に変更 有限会社ティエムエフ設立 資本金400万円
2001年5月	新社屋設立 一宮市三ツ井4丁目9番11号
2001年6月	資本金1000万円に増資
2001年7月	株式会社に組織変更
2007年11月	新社屋設立
2008年1月	新社屋へ本社移転・旧社屋 第二工場へ
2009年2月	経済産業省 中部経済産業局認定 中部IT経営力大賞 「奨励賞」受賞
2009年7月	ISO9001:2015・JIS:Q9001:2015 認証取得
2018年4月	第三工場新設
2018年8月	第二工場増設
2020年10月	SDGs宣言制定
2021年7月	ISO9001:2015・JIS:Q9001:2015 認証更新
2022年1月	一宮市SDGsパートナー制度へ登録



本社・第一工場



第二工場

③企業理念



当社は、ビジョン、ミッション、パッション、サティスファクション、アクションから構成される“5つの「シヨン」”を経営理念として掲げている。

ビジョンにおいては、「誠実・礼節・創意工夫」を原動力として社会への貢献と、CS、ES向上を実現することを理想像と定めている。これは、業種柄精緻な作業や徹底した品質管理が求められる当社にとって、「誠実・礼節・創意工夫」が従業員一人一人に意識されることによって、顧客だけでなく当社を取り巻く社会全体への貢献へつなげることを理想的な将来ビジョンとしている。

ミッションは、当社の使命・目標・目的を定義し、理想像へ近づく為の当社の在り方を表している。具体的には上記ビジョンの創意工夫をもってして加工ビジネスという定型事業にとどまらず、顧客のニーズをどこまでも追及し、新たなソリューションを生み出すことが、付加価値の創造であると位置づけている。

パッションは、当社従業員としてのあるべき姿を定めている。会社、製品、顧客に誠実であること、且つ自身の向上心により能動的な行動をとる姿勢が重要であり、従業員の心構えであることを規定している。

サティスファクションは、当社に関わる人々との関わり方を規定している。従業員に対してはチー

ムワークと協調性を大事にすることを意識づけるとともに、企業としても働きやすい職場環境づくりを整備することとしている。また、顧客満足度の向上においても、常に顧客の立場になって考えることを意識している。

アクションは、当社の行動指針として従業員一人一人が取り組むべき具体的な行動が示されている。

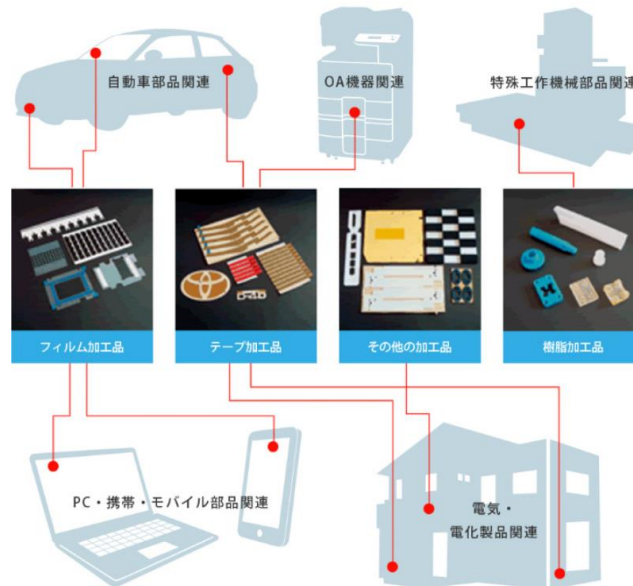
これら5つの経営理念、行動指針はそれぞれが独立した考え方ではなく、ミッション、パッション、サティスファクション、アクションが相互に作用しながら連動することで当社のビジョンを実現することを意味しており、当社の将来像とそのプロセスが明確化されている。

当社の上記のようなマインドはSDGsの観点においても直接的に関連しており、持続可能な社会の実現へ向けた企業の存在意義を十分に理解した内容になっている。

2. 事業内容

①事業概要

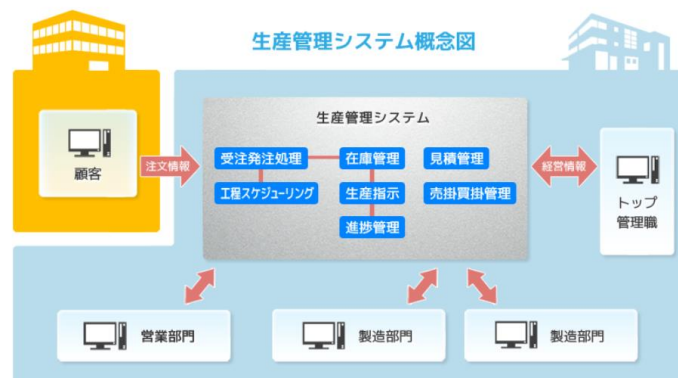
当社は、フィルム加工、テープ加工を中心事業として、多様な加工、工作機械を導入し、顧客ニーズに合わせた加工サービスを手掛ける。製品の幅は同業と比較してもかなり広く、自動車を中心に、OA 機器関連、工作機械部品、PC・携帯電話・モバイル端末の部品、電気機器・電化製品にも対応している。



当社製品の範囲

当社は、ITによる生産管理を早期に導入し、材料調達から生産、検品、出荷作業に至るまでの作業を「標準化」し、無駄の「見える化」を実現した。これにより生産物の精度、人的なエラーの発生率という両側面において「誤差」を飛躍的に軽減する事が可能となっている。さらには客先への見積書ひとつでも「根拠」と「裏付け」のあるデータを提示できるため、顧客と自社の従業員との共通意識のもと営業、受注を行うことが出来る。

この生産管理システムは当社独自のシステムとして製作されており、社内SEを所属させることにより、常に修正、改善が可能な体制となっている。ベンダー等を介入しない為、よりスピーディな対応で顧客ニーズを反映している。



独自の生産システム

上記の生産管理システムを活用した当社の品質水準は非常に高く、顧客の要望に応じて画像測定器を使用し、顧客が望むフォーマットに落とし込むことで、加工後のイメージを共有することが可能である。その結果、その後の工程に無駄がなく完成までのプロセスが明確に提示できることが特徴である。

また、トレーサビリティについても円滑に機能しており、納入後でも製品ロット番号から「いつ、誰が、どれだけ、どの材料を使って製作したか」までの履歴がデータ管理されている。これにより過去の実績と情報、技術力が蓄積され、従業員の技術力向上、再受注の際の対応迅速化が図られる。



画像測定システム



トレーサビリティ管理

また、社歴が浅い社員でも安定した品質が製造できるような仕組みも構築されている。具体的にはシステムによる作業標準化と工程を細分化し、工程ごとにプロフェッショナルな人材が育つ体制をとり、作業の標準化、効率化を徹底する。作業の引き継ぎ、教育においてもポイントを動画や画像で記録、マニュアル化することでノウハウの継承もスムーズに行うことが出来る体制となっている。

これらの生産工程はバーコード管理されており、生産ごとハンディで生産タクトを蓄積することで、工程所要時間を算出し、より効率的に稼働出来るようコントロールする。上記の作業標準化や、効率化により当社の低コストが実現しており、大型から小型のフィルム加工に至るまで、均一な加工クオリティを維持することにつながっている。



ハンディによる登録

工程名	材料確認	基本時間	工程名	718-1	基本時間
指示数	1	業経時間	指示数	1	業経時間
取数	1	生産数	取数	20	生産数
材料確認 300w × 600mm 1000枚 検印済		材料確認 300w × 600mm 1000枚 検印済			
工程名	検身加工	基本時間	工程名	277-1	基本時間
指示数	1	業経時間	指示数	0	業経時間
取数	1	生産数	取数	0	生産数
材料確認 300w × 600mm 1000枚 検印済		材料確認 300w × 600mm 1000枚 検印済			

工程チェック表

上記のように、動画によるマニュアル化やハンディによる生産性の効率化を図りながら、当社の工程管理はガントチャートでの工程スケジューリングを行っている。作業の進捗状況は工場内の液晶テレビにリアルタイムで映し出し「見える化」されている為、工場内での情報がすべての従業員で共有し連携することが可能となっている。



工場内ディスプレイ



スケジューリング工程

②取扱製品・加工技術

当社の加工は、打ち抜き加工、切断加工、アッセンブリー（組付け）、切削加工に大別される。前述の自社独自の基幹システムに加え、最先端の全自動オートメーション機械の使用により、シンプルな工程で大量に品質の高い確かな製品を短納期、低コストで加工する事ができ、設計寸法からの寸法誤差も極小化できることが特徴である。精度の高い均一な加工製品は顧客から大きな信頼を得ており、様々な相談や依頼に対しても、製品の目的や内容に応じた加工に対する積極的な提案や、設計段階からの企画立案も提供する。

このような提案や企画立案は技術力とノウハウの蓄積によって実現されており、多様な加工機械のラインナップと営業と実務作業の綿密な連携がこれを可能としている。



精密自動切断機



高速自動高精度裁断機



三軸制御式自動打抜機

上記のほかにも、2軸スリッター、ロータリーダイカッター1軸・3軸、NC連続型抜機 500幅・800幅、ラミカッター等の機械で顧客のニーズに対応する。

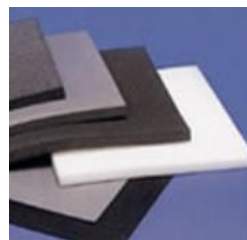
当社の取り扱う素材も多岐にわたっており、材質に合わせた加工、製造を行う。自動車関連や電子機器には絶縁フィルムを活用し、その他多用な合成樹脂、フェルト、ゴム、ガラス成分を含んだ素材等、既存の素材にとらわれることなく、新素材や新たな用途に積極的に使用するなど開発を重ねながら当社の付加価値を高めている。



絶縁フィルム



絶縁フィルム



スポンジ素材



両面テープ

3. その他の活動・CSR活動

①受賞・認証

当社はその加工技術と独自システムの連携による技術革新経営が評価され、2009年に経済産業省中部経済産業局認定 中部IT経営力大賞「奨励賞」受賞を受賞している。

また、品質面での管理体制も整っており、2009年からISO9001も継続して認証を受けている。当社は、前述の独自システムで作業の効率化と均一化を図っている為、不良や返品が少ない特徴があるが、それに満足することなく、更なる品質向上に努めている。



②地域社会への貢献

当社は、地域社会に対する連携、貢献についても積極的に活動している。とくにスポーツ振興に対してはスポーツチームの協賛やスポンサーとなることで貢献している。

若い世代のスポーツ支援として「愛知県Tボール大会」に協賛するほか、地元一宮を活動拠点とする女子硬式野球クラブチーム「東海NEXUS」のトップスポンサーを務めている。



東海NEXUSのHPより

<https://tokainexus.wixsite.com/mysite/post/> 【official-sponsor】

③SDGs 達成に向けた取組

当社は持続可能な社会実現にむけて、経済面や雇用の面において、「モノづくり IoT化による現場の見える化と作業の標準化」を掲げている。

自動車や家電業界を中心に、高機能テープやフィルムの打ち抜き加工品を高品質・低価格を追求することで、顧客の要望を実現できることが、最終的なエンドユーザーに対しての生活水準の充実にもつながることであるとしている。実現に向けて、独自システム導入により、全設備にタブレットを設置しネットワーク化することで、加工条件、加工実績をデータ化し、統計管理・分析している。

その分析結果のフィードバックにより、高精度なスケジュール管理や残業時間改善、教育時間の創出が可能となっており、性別や年齢に関わらず同等の品質・時間でモノづくりができるようになっている。

また、当社は2020年にSDGs宣言を発信。「人権・雇用」、「社会貢献」、「品質保証」、「組織体制」の4つのファクターから、それぞれ当社の進むべき方向性と取組むべき施策を規定している。これらの施策にPIFのインパクトを勘案し、KPIを設定する。

株式会社ティエムエフ SDGs宣言

当社は国連が提唱する「持続可能な開発目標（SDGs）」に賛同し、「誠実・礼節・創意工夫」の経営理念を通じてSDGsの達成に向けた取組みを行っていく事を宣言します。

2020年9月1日

株式会社ティエムエフ 代表取締役 高橋 正泰

🌸 — SDGsの達成に向けた取組み — 🌸

人権・雇用

多様な人材の多様な働き方を尊重し、差別のない職場づくりを行っていくとともに、心身ともに健康に働ける労働環境の整備に努めてまいります。

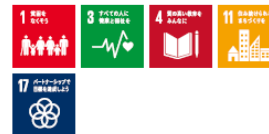
《具体的な取組み：定時退社奨励、RPA導入、研修体制の整備》



社会貢献

寄付や地域活動への協賛に積極的に取り組み、地方創生・地域振興に貢献してまいります。

《具体的な取組み：地元小中学校への備品寄贈、ユニセフへの募金、一宮女子野球への協賛》



品質保証

お客様のニーズに迅速に応え、徹底的に品質に拘ることで、確かな加工技術の確立、新たな付加価値の創造に取り組んでまいります。

《具体的な取組み：ISO9001・JIS:Q9001取得の継続、作業の標準化、生産タクトの分析と改善》



組織体制

企業の社会的責任の重要性を認識し、法令遵守の徹底、自然災害発生時の事業継続体制の整備に努めてまいります。

《具体的な取組み：事業継続計画の策定、内部通報制度の整備》



当社 SDG s 宣言

上記の取組に加え、当社は女性活躍にも注力している。2025年には人事評価制度の改定も想定しており、性別に捉われない評価制度やポジションの創設により、女性の活躍の場をさらに広げる取組を行っていく。

現状においても、当社従業員の男女比率は、従業員91名のうち男性22名(24%)、女性69名(76%)と女性が多く活躍しているが、上記取組により更なる活躍の場を提供していく。

4. インパクトの特定

①インパクトマッピングによるインパクト分布

名古屋銀行は事業性評価におけるビジネスモデル（非開示）により株式会社ティエムエフの主要、関連業種を特定し、UNEP FI が推奨するインパクトマッピングからポジティブインパクト及びネガティブインパクトの分布を調査した。株式会社ティエムエフの業種カテゴリは多岐に渡る為、分布図は主要業種の掲載に限定する。

分布図中の「★★」は重要な影響があるカテゴリ、「★」は影響があるカテゴリを示す。株式会社ティエムエフの事業活動については「★★」「★」の影響をすべて検討する。川上・川下の事業活動については株式会社ティエムエフが直接関与できないため次の事項を検討する。ポジティブ面では川上・川下の事業でポジティブな影響の促進やネガティブな影響の緩和に株式会社ティエムエフの事業が貢献できることがないか検討する。ネガティブ面では川上・川下の事業において重要な影響があるか影響が及ぶ地域での対応のニーズが強いカテゴリについて、取引関係の管理などを通じて緩和に貢献できるか検討する。

分析の対象となる事業活動がインパクトマッピングの業種分類に含まれる特定の事業の場合、当該事業とは無関係なインパクトカテゴリについては検討しない。

「雇用」に関しては多くの事業においてポジティブ・ネガティブの両面の影響がある。全社的な人事戦略・雇用管理などの横断的な対応について別途検討する。

②インパクト分布図（掲載は主要業種のみ）

・川上、川下の事業

インパクトカテゴリ	川上・川下の事業													
	【 2910 】		【 2920 】		【 2013 】		【 2030 】		【 2640 】		【 1811 】		【 1709 】	
	自動車製造業		自動車車体製造（設計）業、トレーラ及びセミトレーラ製造業		プラスチック及び合成ゴム素材製造業		人造繊維製造業		家庭用電子機器製造業		印刷業		その他の紙及び板紙製品製造業	
	Positive	Negative	Positive	Negative	Positive	Negative	Positive	Negative	Positive	Negative	Positive	Negative	Positive	Negative
ポジティブ	ネガティブ	ポジティブ	ネガティブ	ポジティブ	ネガティブ	ポジティブ	ネガティブ	ポジティブ	ネガティブ	ポジティブ	ネガティブ	ポジティブ	ネガティブ	
水（入手）		★★												
食料														
住居									★					
健康・衛生		★★		★★					★		★			
教育											★		★	
雇用	★	★	★	★	★	★	★	★	★	★	★	★	★	★
エネルギー														
移動手段	★★	★	★★											
情報														
文化・伝統											★			
人格と人の安全保障														
正義														
強固な制度・平和・安定														
水（質）		★		★		★★		★		★		★		★★
大気		★		★		★		★		★		★		★
土壌		★		★		★★				★				
生物多様性と生態系サービス														
資源効率・安全性		★★		★★		★		★		★		★		★
気候		★★		★★		★		★		★		★		★
廃棄物		★		★		★★		★		★		★		★★
包摂的で健全な経済	★		★		★		★		★		★		★	
経済収束	★													

当社は自動車関連からの受注が売上げの多くを占めている為、川下の事業においては主に自動車関連、また、加工に使用する素材については繊維、プラスチック、合成ゴム、紙等が用いられる為、川上・川下としてこれらの業種を抽出した。全体として環境面にネガティブインパクトが散見される一方で、自動車部門において移動手段、家庭用電子機器による住環境の充実、印刷業において書籍や雑誌の情報取得による充実に伴い健康・衛生にポジティブインパクトが見られる。

当社から川上の事業に対して能動的なアクションを起こすことは現実的ではないが、当社としてのKPIにはこれらのインパクトを拡大、緩和するものを取入れる。

・当社の事業

インパクトカテゴリ	同社事業									
	【 2220 】		【 2591 】		【 2592 】		【 2790 】		【 2920 】	
	プラスチック製品製造業		金属の鍛造、プレス、打ち抜き及び圧延成形業並びに粉末冶金業		金属の処理・塗装・機械加工業		その他の電気機器製造業		自動車車体製造（設計）業、トレーラ及びセミトレーラ製造業	
	Positive	Negative	Positive	Negative	Positive	Negative	Positive	Negative	Positive	Negative
ポジティブ	ネガティブ	ポジティブ	ネガティブ	ポジティブ	ネガティブ	ポジティブ	ネガティブ	ポジティブ	ネガティブ	
水（入手）										
食料										
住居										
健康・衛生		★								★★
教育										
雇用	★	★	★	★	★	★	★	★	★	★
エネルギー										
移動手段									★★	
情報										
文化・伝統										
人格と人の安全保障										
正義										
強固な制度・平和・安定										
水（質）		★★		★		★		★		★
大気		★		★		★		★		★
土壌		★★						★		★
生物多様性と生態系サービス										
資源効率・安全性		★		★		★		★		★★
気候		★		★		★		★		★★
廃棄物		★★		★		★		★		★
包摂的で健全な経済	★		★		★		★		★	
経済収束										

当社の主要業種である自動車車体製造、電子機器及び電気機器部品製造に川上・川下同様のインパクトがみられる。当社は事業内容で記載した通り、多様な工作機械を駆使して化学製品を加工する。この過程で端材等の不要部分の廃棄や、不良品の発生がある。これらの影響により、廃棄物を中心として環境面に負荷がかかりネガティブインパクトを形成している。資源効率・安全性、土壌、大気については、当社の活動で直接的にネガティブな影響は発生しない。一方で廃棄物の発生については、端材を再利用した商品開発を実施することを KPI に設定し、廃棄される材料に新たな付加価値を付与することで廃棄物のネガティブインパクトの緩和を図る。また、不良品等の発生については、前述の独自の生産管理システムを活用し、限りなく不良を削減し、効率化した生産体制を確立することで廃棄物の発生そのものを減少させることでネガティブインパクト軽減を図っている。この不良の削減については、KPI として、目標値の設定、従業員との共有を徹底すること、上記の商品開発に対して社内表彰を実施する等の

施策を設ける。

さらに、気候のネガティブインパクトはCO2排出による温暖化への悪影響を示しているが、当社はKPIにおいてCO2の排出量の測定、パリ協定に準じた削減目標の設定、目標達成の為に削減努力をKPIに設定することでCO2排出量削減に努め、ネガティブ縮小を図る。

一方、自動車部品製造の観点から移動手段、包括的で健全な経済等にポジティブインパクトが見られる。今回のKPIとしてISO認証の継続取得を目標に設定して製造する部品の品質維持・向上に継続的に取り組むことで、安全性向上に貢献し、サプライチェーンに寄与することで移動手段、包括的で健全な経済の面でのポジティブインパクト拡大を図る。また、川上・川下においてみられた住居、健康・衛生のポジティブインパクトについても、電化製品の部品加工を行う当社と関連性が深い。KPIで設定した新商品の開発により、自動車に関わらず多様な用途で活用することを目指し、人々の暮らしを充実させることで住居、健康・衛生のポジティブインパクト拡大を図る。加えて、地元一宮のスポーツチームを支援することをKPIに設定し、従業員や地域社会の健康意識の醸成に寄与する取組を行う。雇用におけるポジティブは雇用機会の拡大、ネガティブは早期離職や労働環境の悪化が想定される。当社はこの両側面について人事制度を確立することによりそれぞれの拡大と縮小を図る。各部署や年齢層に平等性のあるインセンティブを付与し、成果、能力に合わせて評価することで従業員が活躍できる職場をつくっていく。この人事制度確立をKPIに設定する。

尚、特に重要なインパクトカテゴリと対応するSDGsのゴールは、下記の通りである。

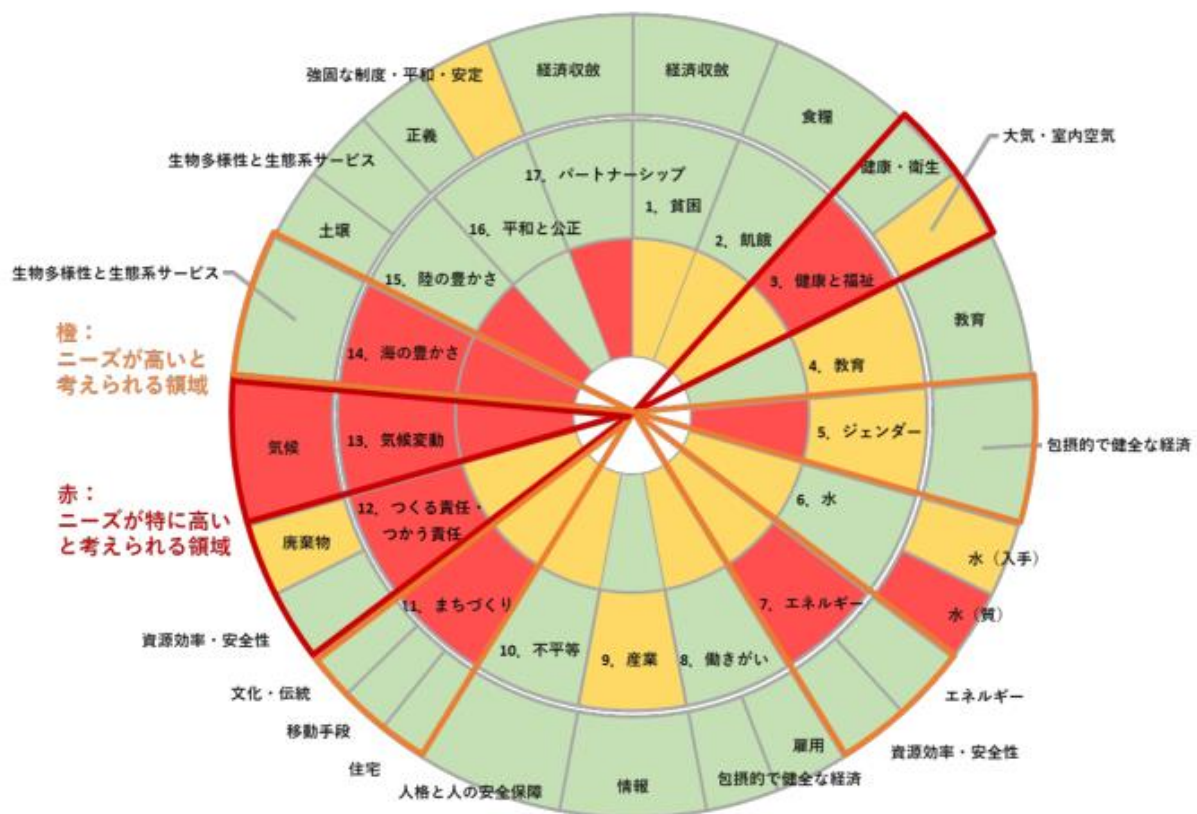
※対応するSDGsのゴール



③国内のインパクトニーズ



環境省が策定した「インパクトファイナンスの基本的考え方」における国内のインパクトニーズは下記の図によって表される。特に取り組むべきSDGsを赤色、取り組むべきであるが不十分なSDGsを黄色、その他を緑色としているものである。

名古屋銀行が特定した株式会社ティエムエフのインパクトと対応するSDGsのゴール「3、8、11、12、13、17」に対して、全て赤色もしくは黄色のゴールに該当するものとなっており、国内のインパクトニーズとの整合的である。



5. 測定するKPI

①技術力を活用した付加価値の創造と経済成長

項目	内容
インパクトの種類	経済面でポジティブインパクトを拡大
インパクトカテゴリ	「包括的で健全な経済」「廃棄物」
関連するSDGs	 
対応方針	自社の技術力を維持、活用して端材の再利用することによる新たな付加価値の創造
KPI	<ul style="list-style-type: none"> ・2030年度決算まで、毎年端材を再利用した新商品の開発、販売を1商品以上継続する（実績開示） ・ISO9001、JIS9001の更新を継続し、品質維持、向上に努める（取組開示）



②従業員の働きがい向上による雇用促進

項目	内容
インパクトの種類	社会面でポジティブインパクトを拡大
インパクトカテゴリ	「雇用」
関連するSDGs	
対応方針	働くモチベーション向上、従業員の福利厚生・労働環境の充実
KPI	<ul style="list-style-type: none"> ・2025年度決算までに人事評価制度の再編を実施し、専門職の活用、成果・能力に合わせたインセンティブを織り込む（取組開示）

③地域社会の発展への貢献活動

項目	内容
インパクトの種類	社会面でポジティブインパクトを拡大
インパクトカテゴリ	「健康・衛生」
関連する SDGs	  
対応方針	スポーツ振興を通じた地域との関わりを尊重、地元教育機関との地域社会発展へ向けた協力
KPI	・一宮女子野球、一宮地区のTボール大会、バスケットボール大会への協賛を継続する。(取組開示)

④環境配慮・カーボンニュートラル実現に向けた積極的な取組み

項目	内容
インパクトの種類	環境面でネガティブインパクトを縮小
インパクトカテゴリ	「気候」「廃棄物」
関連する SDGs	 
対応方針	国際基準に基づいた温暖化対策、温室効果ガス削減、廃棄や施工不良の削減
KPI	<ul style="list-style-type: none"> ・廃棄物や施工不良の低減について従業員と共通の目標水準を設定し、毎年の目標水準を達成する。また、端材のリサイクルや商品開発利用を積極的に行う意識を醸成させる為、端材を活用した商品の開発者などに対して社内で表彰を行う（取組開示） ・温室効果ガスの排出量算定を毎年行い、排出量削減目標について SBT 認定の取得、または SBT 認定に準じたレベルの目標設定を 2025 年までに行い、排出量削減に取り組む（取組開示）

6. インパクトの管理体制

株式会社ティエムエフは平松社長を中心としてサステナビリティ経営充実の為の施策を各事業部が連携してSDGsの施策を検討・実施・検証する体制が整っている。

めいぎん PIF におけるインパクトについては、平松社長が中心となり、管理・達成へ向けた施策を実施する。

インパクト管理者

最高責任者	代表取締役会長 高橋 正泰
管理責任者	取締役社長 平松 聡

7. モニタリング方法

株式会社ティエムエフに対するめいぎん PIF のモニタリングは、インパクト管理者と名古屋銀行の担当者（法人営業部サステナビリティ推進担当及び営業店担当者）により年 1 回以上の協議を通して実施する。年 1 回以上の協議は、下記のプロセスで行われる。

項目	内容
1. 内容報告・実績開示	設定した KPI の達成度を確認する。
2. 検証・精査	達成度について開示された情報を名古屋銀行が確認する。
3. 修正の検討	達成度・進捗度を検証し KPI の修正を検討する。
4. 追加の検討	形骸化を防ぐ為、KPI の追加や削除を検討する。

名古屋銀行は上記のプロセスにおいて、自行のサポート及びアドバイスを実施する。また、モニタリング実施状況については、株式会社格付投資情報センターに対し、包括的な年次レビューを受ける。

8. 総括

株式会社ティエムエフの事業内容及びインパクト調査の結果、手がける事業それぞれにポジティブ及びネガティブな影響を確認した。株式会社ティエムエフが KPI 達成を目指すことで社内、地域社会及び地球環境全体への大きな貢献が想定され、UNEP FI の「ポジティブインパクト金融原則」、ESG及びSDGsの観点からも十分な適合性を確認した。